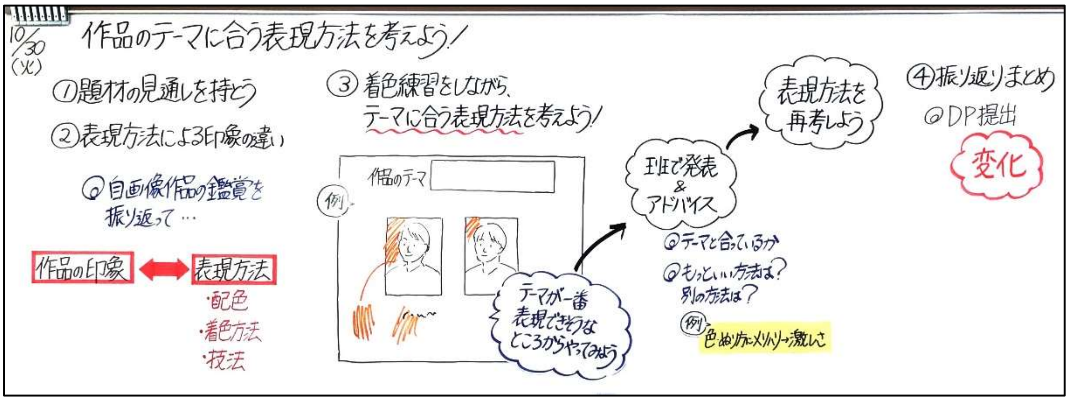
10.30 美術科（村上）

授業の成果と課題

１　授業の実際

⑴　板書



10/30（火）

作品のテーマに合う表現方法を考えよう！

①題材の見通しを持とう

②表現方法による印象の違い

◎自画像作品の鑑賞を振り返って…

作品の印象 ⟷ 表現方法

・配色

・着色方法

・技法

③着色練習をしながら、テーマに合う表現方法を考えよう！

例

作品のテーマ

テーマが一番表現できそうなところからやってみよう

班で発表 & アドバイス

◎テーマと合っているか

◎もっといい方法は？別の方法は？

例 色ぬり方→メリハリ→激しさ

表現方法を再考しよう

④振り返りまとめ

◎DP提出

変化

⑵　生徒の学びの実際（ワークシートやデジタルポートフォリオの記述から抜粋）

○実際に着色を試してみることで，テーマと照らし合わせて考えて，それが本当に合っているか，客観的に自分の作品を見ることができた。

○塗り方ひとつでも大きくイメージが変わることが分かった。まずはしっかりと自分の作品のイメージを持って，そのイメージを表現できる着色や色合いを意識することが大切だと思った。

○アドバイスをもらって，色の明るさを変えて着色してみたことで，少しだけテーマに近づいたように感じた。

○やってみてはじめて二つのテーマを表現することはとても難しいと感じた。一つのテーマを満たそうとすると，もう一方のテーマにとってはおかしいとなってしまうので，全てが満たされる色合いが重要ではないかと感じた。

○他の人のやり方を見て学ぶことができた。次からは色の差や変化を意識して着色したい。

○色や着色方法，モダンテクニックなどを活用することで，テーマをより強調できそうだ。

○描くことでイメージが湧いたし，友達の意見を聞いて自分の考えがだいぶ固まったので良かった。

２　成果（○）と課題（●）

⑴　小集団で発表や助言をし合う場面を設定したことは，生徒が作品の構想を改善させたり，よりよい表現方法を考えたりすることに有効であったか。

○小集団活動での助言をもとに，生徒が実際にワークシートに着色練習をすることで，アイデアを具体的に確認し，実感を持ちながら構想を練り直すことができた。また，助言を受けて検討した上で，助言よりも自分のアイデアがよいと確信を持つ生徒もいた。どちらも話合い活動を通して自己のアイデアを客観視した結果なので，大変意味のある活動であると感じた。

●前題材の振り返り→着色練習→班活動→着色練習→本時の振り返りという活動内容が多い授業構成であった。そのため，それぞれの時間設定が短くなり，特に班活動での話合いの深まりに差が生まれてしまった。時間制限がある中で話合いを深めさせるための手立てが必要である。また，班活動のルール設定や授業の組み立てを工夫する必要がある。

○テーマに対する表現のイメージがあまり湧いていない生徒にとっても，小集団活動の発表や助言を考えるためのよい材料となっていた。生徒によっては手本を見せることでイメージがしやすくなったり，アイデアを広げやすくなったりする。今後の制作では，教師の手本や美術作品，生徒作品などを取り上げて，生徒にテーマの追求をさせるための支援や問題提起をしていきたい。

●今回の授業のように，話合い活動や振り返りの設定を工夫し，自己のアイデアや作品を多様な視点で捉えさせることが，直接的に「メタ認知力」の育成をすることになるのだろうか。他者からの意見や他の表現を知ることで，自己を客観視することのできる生徒もいれば，なかなかできない生徒もいる。後者の生徒のメタ認知力を高めるための手立てを考えたい。

⑵　ロイロノートの活用が生徒の主体的な表現活動を促進することに有効であったか。

○ロイロノートによるデジタルポートフォリオの作成を本単元でも行った。生徒はデジタルポートフォリオをいつでも確認することができるため，単元の流れを確認して見通しを持ったり，

制作過程を振り返ることで自己の成果と課題を自覚し，次回への手立てを考えたりすることができた。授業での様子からも，生徒が少しずつ表現方法についての考えを深め，テーマの表現を探究しようとする意識の高まりが感じられた。

○生徒の様子に応じて制作過程の写真を授業中に取り上げて，他の生徒の取組から学ぶ機会を設けることができた。また，既習内容（色彩の性質，構成，水彩絵の具による多様な表現方法・技法について）の資料を配付し，いつでも生徒が確認することができるようにした。それにより，生徒が自分の取り組み方を客観視したり，よりよい表現について積極的に考えたりする様子が見られた。

○デジタルポートフォリオをもとに，生徒が制作のために知りたいことや悩んでいることに応じて，新たな情報を提示したり，画家による絵画作品の鑑賞などを取り入れたりするなど，生徒の主体的な活動への支援を行うことができた。

●デジタルポートフォリオでの記録の頻度や内容が多いと，場合によっては制作の勢いを止めることにつながることがあると感じた。単元の中で振り返りを記録するタイミングや観点を精選するなどして，よりよい活用を図りたい。